

# 岐阜大学国際交流 ニュースレター

Newsletter of International Exchange, Gifu University

No.38  
2013年3月

## 新たな大学間学術交流協定大学

新たに、2大学との大学間学術交流協定を締結し、本学の大学間学術交流協定大学は、15か国44大学となりました。



◀ガジャマダ大学  
(インドネシア)



◀シドニー大学(オーストラリア)

2012年12月5日学術交流協定締結。オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ州の州都シドニーに1850年に設立された同国最古の大学である。同国の歴代首相やノーベル賞受賞者、著名文化人を数多く卒業生に持つオーストラリア有数の総合大学である。世界の大学ランキングでも上位に選ばれており、世界各国から多くの留学生を受け入れている。

2012年9月13日学術交流協定締結。同大学は1949年に設立されたインドネシアで最も歴史のある国立大学の一つで、古都として知られるジョグジャカルタ市に位置する。同大学は21の学部を有する総合大学であり、様々な国際的な大学ランキングでも常に国内最上位に位置し、インドネシアを代表する最高学府の一つとして内外から高い評価を得ている。

## 新たな部局間学術交流協定大学

新たに7大学8部局との部局間学術交流協定が締結されました。

大学・学部名等	国名	担当部局	締結日
スラバヤ・マレット大学 (農学部)	インドネシア	応用生物科学部	2012年3月28日
スラバヤ・マレット大学 (大学院)	インドネシア	連合農学研究科	2012年3月30日
インド工科大学 (グワハティ校)	インド	連合農学研究科	2012年7月19日
アッサム大学 (生命科学部)	インド	連合農学研究科	2012年7月20日

大学・学部名等	国名	担当部局	締結日
サー・パラシュラムブ・カレッジ	インド	工学部	2012年9月17日
モンゴル国立大学 (地理地質学部)	モンゴル	応用生物科学部	2012年10月29日
チュラロンコン大学 (理学部)	タイ	連合農学研究科	2012年12月6日
忠南大学(工学部)	韓国	工学部	2013年1月18日



## 国際週間を実施

本学初の試みとして、平成24年度においては、5月23日から6月3日を「春の国際週間」、11月9日から24日までを「秋の国際週間」と位置づけ、国際戦略本部主催のイベントを集中的に開催しました。このうち、秋には、各部局が主催する、外国人研究者による講演会等も行われました。このように、国際週間の取組について来年度以降も各部局の協力を得ながら、継続して行うことで、本学の国際化を更に促進していきたいと考えています。

### 1.交通安全教室の実技指導講習会(6月3日)

岐阜市内の三田洞自動車学校を会場に、外国人留学生及び研究者とその家族を対象として、岐阜北警察署及び岐阜市役所、社団法人日本自動車連盟の協力により開催しました。同講習会では、岐阜北警察署員から、主な交通標識についての講義の後、三田洞自動車学校の教習コースで、実際に学校の教習車や自転車を使っての実技指導が行われました。また、自転車シミュレーターを用いた指導や、模擬衝突体験車によるシートベルト効果体験、飲酒ゴーグル体験なども行われ、参加者は楽しみながら交通安全について学びました。



自転車に乗る際の目視確認指導

### 2.イングリッシュ・ラウンジ関連イベント (11月12日、14日)

11月14日に、スリランカ人の自己の経験に基づく、「スリランカの結婚式」についてのプレゼンテーションが英語で行われ、参加者は、エキゾチックなスリランカの儀式に魅了されました。また、11月16日には、参加者が各国の料理等を持ち寄るポットluckパーティーが行われ、日本人学生、外国人留学生等が英語による交流を深めました。なお、同パーティーでは、余興として、ラッフル(寄付金集めの福引)もを行い、日本赤十字社の東日本大震災義捐金として寄附しました。



スリランカの結婚式を紹介するタランギカさん

### 3.岐阜大学国際交流支援団体との交流会 (11月13日)

国際交流支援団体との交流会を開催しました。同交流会は、本学の国際交流促進のための奨学寄附金の協力企業や団体をはじめ、日頃から外国人留学生の生活を側面から支援する地域の国際交流団体に感謝の意を表するとともに、大学職員と企業・団体の関係者及び外国人留学生の交流の場として毎年開催しています。



本学上海オフィス于平氏による講演

### 4.学術交流協定大学である ノーザンケンタッキー大学(NKU)による 講演会(11月14日)

学術交流協定大学であるNKUからフランソワ・ル・ロイ氏を招き「グレーター・シンシナティと日本」と題して、講演会を開催しました。聴講者らは、美しい映像と、ユーモアを交えたル・ロイ氏の英語を通じて、本学とNKUとの長い交流の歴史や、岐阜市とシンシナティ市との姉妹提携交流、さらには現地での日本企業や日本語学校の活動状況を学びました。



シンシナティの様子を詳細に紹介するル・ロイ氏

### 5.留学生等と地元企業との交流会(11月14日)

産学連携の枠組みで地元企業を知る機会を本学の留学生及び日本人学生に提供するため、岐阜信用金庫の協力により地元企業との交流会を開催しました。岐阜周辺地域の企業22社が参加し、本学の外国人留学生及び日本人学生と交流しました。



地元企業の話に熱心に耳を傾ける外国人留学生

### 6.第10回日本・ブラジルワークショップ (11月14日)

毎年、ブラジル(カンピーナス大学)及び日本(岐阜大学)で交互に開催している日本・ブラジル国際ワークショップが、今回は本学と熊本大学の共同主催により開催され、両国が抱えるエネルギー、環境問題について情報交換・意見交換を行い、共同研究・開発に向けての建設的な討論が行われました。

なお、今回のワークショップは、熊本大学をメイン会場としたことで、本学とはテレビ会議システムで中継されました。



熊本会場で環境エネルギーについて講演するルイス・コレステス氏

### 7.日本・インドネシア学長会議(11月15日~16日)

名古屋大学にて、日本・インドネシア学長会議が本学を含む東海地区の5国立大学法人の共同主催で行われ、本学は分科会2を主催しました。また、ウェルカムレセプションにおいては、本学の学生と職員による邦楽演奏が日本側の余興として行われ、出席者を魅了しました。なお、同会議の全体会議において、トヨタ自動車副社長、ハビビ元インドネシア大統領による基調講演も行われ、本学からも多数のインドネシア人留学生が傾聴しました。



本学関係者による邦楽演奏に聴き入る出席者

### 8.ポスターセッション(11月12日~22日)

国際週間の期間中、図書館2階閲覧コーナーを利用し、外国人留学生による母国紹介を中心としたポスターセッションを行いました。ブラジル、中国は内モンゴル自治区、フィリピン、インドネシア、スリランカ、ブルガリアの学生や研究者が展示し、自国の美しい景色や食べ物等の写真を掲示したり、民族衣装や雑貨、ポストカード等思い思いのものが展示されました。



ポスター等による出身国紹介の様子

# From International Students



地域科学部  
地域文化学科 3年  
**黄 愛媚**  
ン アイメイ(マレーシア)

## 「風にのる」

「なぜ日本に留学しようと思っているか、そしてなぜ岐阜なのか」という質問はどの留学生でも聞かれたことがあると思う。高校時代は卒業したらとにかく留学したいと思っていた。その時に接したのは日本語で、勉強し始めたのもその時だった。日本に対するイメージは高技術の先進国で皆の憧れの留学先だ。それで、日本に留学しようと決心し、出身地は都市なので、あえて日本の地方に行こうとし、辿りついたのは岐阜大学だった。

岐阜大学は駅から離れているが、様々な学部が一つのキャンパスにあることが特徴だ。寮もすぐキャンパスのとなりにあって移動するのに自転車または徒歩で5分か10分ぐらいだけだ。入学するときに駅で先輩に自転車を買いに連れて行ってもらって、駅から自転車で40分こいで大学まで来たのは人生初の長距離自転車運転だった。その夜の筋肉痛は未だに覚えている。そして、新しいものばかりのよその国にきて、不安よりわくわくする気持ちになり、留学という旅が始まった。

日本人はとても礼儀正しいとよく聞いていたが、日本に来て初めて実感した。上下関係を重視される社会で言葉遣いにも日本

人は皆心がけているようだ。他人への尊重や配慮は言葉遣いなどを学ぶうちに、自然に身につくだろう。茶道部に入部することによって、茶道はもちろん、そういった他人への思いやりは日本昔の伝統から受け継がれてきたものだと思われる。いつも何にでもぶつかっていく私を行動する前に少し考えるように変えてくれたのだ。

日本に来てもうすぐ3年になり、岐阜にもだいぶ慣れてきた。ここでの交通手段は自転車で、とても都市では経験できないものだ。奨学金と授業料免除のおかげで、今は仕送りなしで、バイトしてなんとか自立した生活を送っている。ここに留学することによって、自転車に乗っているみたいに自分の力でこいで前に進むことを学んだ。ときには強い向かい風に吹かれ、ときには追い風に追われ、そのときの風に乗り自分なりに適応していく能力が必要だ。岐阜というところは私にとっては第2のホームで、岐阜大学にいる皆さんは私の家族で、ここにいるとホッとする気持ちになる。あと一年しかいられないと思うと鬱になるが、最後の年だからこそ限った時間を大切に、皆の支えの下で頑張っていこうと思っている。(原文のまま)



工学研究科博士前期課程  
応用情報学専攻 2年  
**陳 効毓**  
チン ショウイク(中国)

## 「留学生、後悔するな」

「留学」って何ですか?「夢」だと思われる人が多いと思います、なぜなら、異国の風俗、習慣、文化の体験、母国でどこからも学べない知識は人生のありがたいエピソードとして残せます。ところが、私にとっては、単純に「夢」とは言えません。

4年前、日本の空港に到着した時、未来に期待する気持ちで、「新しい人生が始まるぞ」という言葉が浮かんできました。「充実した留学生活を送りたい」と誓いました。

ところが、最初はいろいろなことが予想通りに順調に進展ていなかったです。日本語の不勉強だったり、学習奨励金が申請できなくなったり、アルバイトを見つけられなかつたりしました。経済的な面では自分の生活が大きな問題となり、勉強にも力を注げませんでした。

自分が描いたきれいな「夢」が破れて、周囲の人々に見捨てられた感じで、完全に落ち込ました。そのときには、国内の楽しい生活、懐かしい青春を思い出して、「中国に帰りたい」と嘆きました。

その時、中国にいる親から電話があり、お父さんからは「挫折から逃げることは男前じゃない!」と言われ、お母さんに「どんな困難

に直面しても軽く諦めないで、成功するまでずっと支持しているよ」と励まされました。私が落ち着き、そこまでの生活を振り返ると、「私はまだ若者だからこそ困難が来ても当然だ、誰も人生がうまく進んでいいわけではない、だたし、苦しい生活を乗り越えれば、私も成長できる、その最高な喜びはどこでも味わうことができないものだ」と気付きました。

それ以降、私は毎日のスケジュール管理をきちんと行い、時間を最大限に効率化し、仕事と生活を両立しました。自分のお金の有効な使い方を考えました。結局、研究は予想以上に進んで、国際学会に論文が採用され、先生からもいい評価を獲得しました。また、就職活動では、最初は欧米の優良企業に挑戦し、落ちましたが、就職支援室の先生からもアドバイスをたくさんいただき、本格的に日本の選考に挑戦することにしました。努力した結果、内定をもらった6社のうち一番興味を持っている1社を選びました。そのほか、現在、ロータリー米山奨学金を受給していますから、自分のプライベートタイムがカラフルになった感じがしています。

みんなにとっては、日本に留学することは必ずしも人生の最高な目標だというわけではないですが、海外の生活を通じて、視野を広げ、人生の夢に近づき、目標を実現しやすくなるのではないでしょうか。いくら苦しみや悩みに遭っても、冷静に対応し、全力を尽くせば十分だと思います。

最後の一言:留学生のみなさん、自分の未来像を描きましたか。(原文のまま)



## 国際交流事業に御協力いただいた団体(2010~2012年)

財団法人味の素奨学会  
イビデン株式会社  
財団法人井上国際交流基金  
株式会社エヌティック  
株式会社大垣共立銀行  
河合石灰工業株式会社  
財団法人岐阜県環境管理技術センター  
公益財団法人岐阜県国際交流センター  
岐阜県国際交流団体協議会  
岐阜市青年団OB会  
岐阜市役所商工観光部  
岐阜信用金庫  
岐阜ゾンタクラブ  
岐阜長良川ユネスコ協会  
岐阜西口ータリークラブ  
岐阜東口ータリークラブ  
岐阜南ライオンズクラブ  
郡上八幡国際友好協会  
財団法人交流協会  
国際交流の輪∞黒野

国際ソロプチミスト岐阜  
財団法人国際調和クラブ  
サンメツセ株式会社  
株式会社ジャパンプランツ  
株式会社十六銀行  
株式会社スギヤマメカレトロ  
西濃華陽観光バス株式会社  
太平洋工業株式会社  
公益財団法人田口福寿会  
財団法人朝鮮奨学会  
東邦ガス株式会社岐阜営業所  
北方自動車学校  
ハートランス株式会社  
財団法人服部国際奨学財団  
財団法人平和中島財団  
三田洞自動車学校  
三菱商事株式会社  
NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド  
財団法人ロータリー米山記念奨学会

本学の国際交流事業は、上記の企業・団体からの御寄附及び御協力により運営されております。(50音順、敬称略)

### 留学生参加の国際交流活動に協力する地域団体(順不同)

NPO法人国際文化友好協会、一宮市国際交流協会、JAPAN TENT開催委員会、富加の青少年を育てる会、廿日市市国際交流協会、大野きょうだい会、せぴあ会、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会、名古屋ホームステイボランティアセンター、八白庵保存会、国立青少年教育振興機構、北海道国際センター

## 岐阜大学基金(国際交流事業)の御協力とお願い

岐阜大学における国際交流を充実・発展させるために、岐阜大学基金(国際交流事業)への御寄附をお願いいたします。寄附申込書を以下の【岐阜大学基金HP】から入手いただき、寄附目的の欄のその他にチェックを入れ、「国際交流事業」と記入いただきますと、本学の国際交流事業への寄附金として取り扱われます。主な国際交流事業として、私費外国人留学生学資援助金、研究者交流助成、短期留学(派遣)奨学金、異文化交流等を行っております。

**【岐阜大学基金HP】<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=1012>**

本学への寄附金は、所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第3項第2号に基づき、財務大臣が指定した寄附金(昭和40年4月30日大蔵省告示154号)に該当するもので、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上全額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から取り扱われます。

編集:岐阜大学国際戦略本部

事務局 学術国際部国際企画課

TEL: 058-293-3353 / 3350 FAX: 058-293-2143 E-mail: int\_exch@gifu-u.ac.jp

国際企画課(留学生支援室)

TEL: 058-293-2139 / 2137 FAX: 058-293-2143 E-mail: direcent@gifu-u.ac.jp

本誌は、岐阜大学ホームページ上で公開しています。

岐阜大学国際交流ニュースレターURL <http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?nd=250&cd=257>